



# 多職種連携短期特別研修

主 催

国立障害者リハビリテーションセンター 学院

協 力

所沢市 所沢市教育委員会 入間市 入間市教育委員会 埼玉県教育委員会

国立きぬ川学院 国立武蔵野学院 秩父学園 発達障害情報・支援センター

# leave no one behind

誰一人取り残さない

持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)

9,520,000人

義務教育段階にある全児童生徒数

文部科学省, 基礎資料集「特別支援教育の現状について」

244,940人

義務教育段階にある不登校児童生徒数

文部科学省, 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について

663,348件

小中学校におけるいじめの認知件数

文部科学省, 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について

599,000人

特別支援教育を受ける児童生徒数

文部科学省, 基礎資料集「特別支援教育の現状について」

219,170件

児童相談所での児童虐待対応件数

厚生労働省, 令和4年度児童相談所での児童虐待相談対応件数（速報値）

# 土台としての地域力の強化

「他人事」ではなく「我が事」と考える地域づくり

厚生労働省, 地域共生社会の実現に向けて

こどもも、家族も、支援者も、一人で抱え込まない

〈多職種連携短期特別研修のお知らせ〉

# 多職種連携短期特別研修

本研修は、地域の多職種連携を効果的に行うためのネットワークの構築に向けて、多職種連携の意義や課題を共有するとともに課題解決のための工夫等を明らかにして、事例検討と施策に貢献できる人材を育成することを目的としています。



# 多職種連携短期特別研修

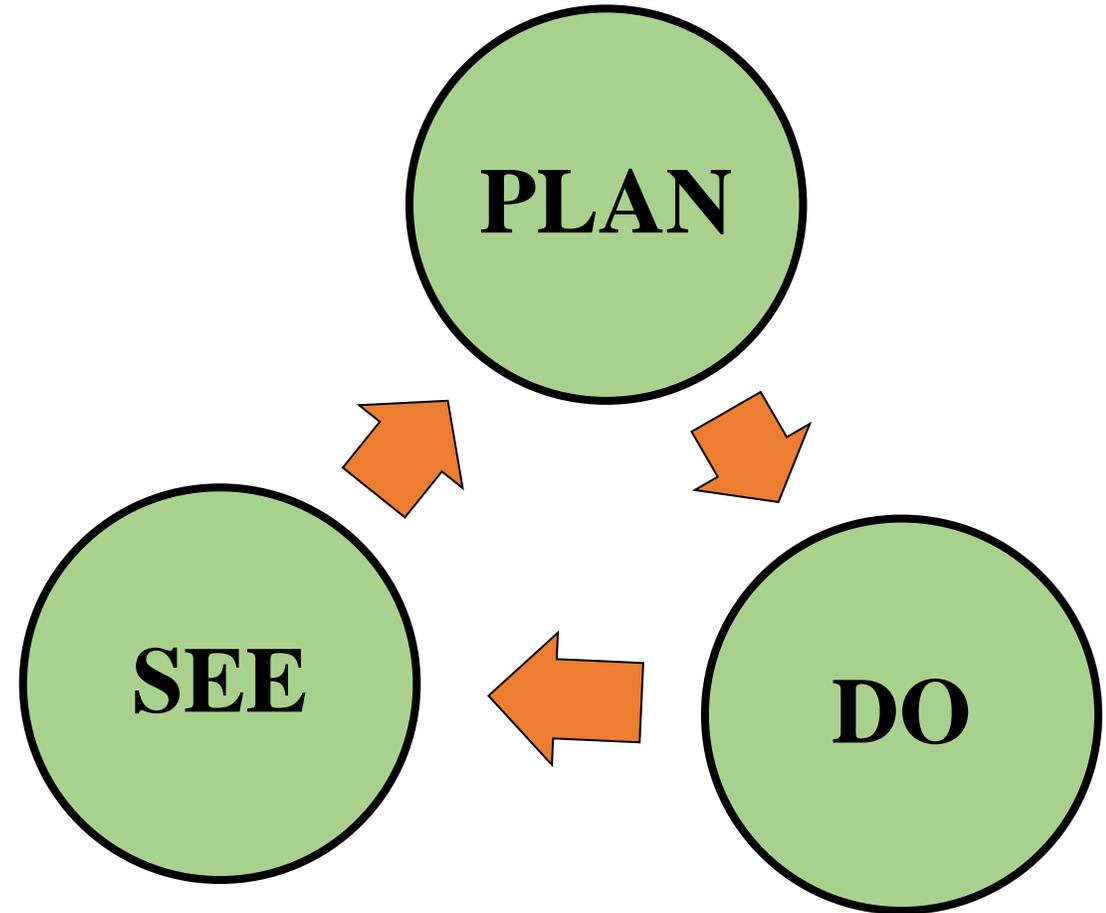
## 【1. 研修の対象者】

### 現場担当

- ・説明できる実践
- ・実践の言語化

### 施策担当

- ・現場の話を聴く
- ・予算化・施策化



研修による連携(点から線に、線から面に)  
発達障害や特別支援教育に限定しない

## 【2. 研修の目的】

- 1、多職種連携を効果的に行うためのネットワークの構築に向けて、多職種連携の意義や課題を共有するとともに課題解決のための工夫等を明らかにする。
- 2、事例検討と施策に貢献できる人材を育成する。

お互いにわかり合えないことがあったとしても、  
お互いにリスペクトする関係を構築する。

# 事例検討会のイメージ (本研修のゴール)



起きている現象だけではなく、  
なんで起きている？まで考える

【インテイク/エピソード】  
自家金品の持ち出し

【アセスメントとプランニング1】

金銭管理ができていない⇒ 家族に金銭管理をしてもらう

【アセスメントとプランニング2】

悪い先輩からカツアゲされている⇒ 先輩から守る

【アセスメントとプランニング3】

友だちができないからお菓子を配る⇒ 友だちづくりの支援

# 多職種連携短期特別研修実施要項

※詳細は、ホームページまたは国リハ学院児童指導員科（04-2995-3100内線2626）

## 1 目的

- ・多職種連携を効果的に行うためのネットワークの構築に向けて、多職種連携の意義や課題を共有するとともに課題解決のための工夫等を明らかにする
- ・事例検討と施策に貢献できる人材を育成する

## 2 主催

国立障害者リハビリテーションセンター学院、

## 3 協力

所沢市、所沢市教育委員会、入間市、入間市教育委員会、埼玉県教育委員会、国立きぬ川学院、国立武蔵野学院、秩父学園、発達障害情報・支援センター

## 4 期間

2024年11月1日～2025年2月28日（※受講申込期間 2024年9月1日～2024年9月15日）

## 5 対象（定員25名）

- ・多職種連携の必要性を感じている発達支援に関わる中堅職員（経験年数3年以上）  
または施策の起案立案等に携わる者
- ・所属長からの推薦がある者

## 6 選考方法

書類選考